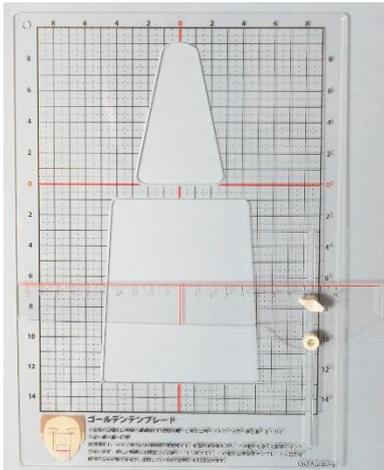


ゴールデンテンプレート



使用目的

正面観の顔貌の偏位を測定するテンプレートです。

顔貌の正中は、正面観により左右瞳孔の中心と眉間、人中、オトガイの先端を結んだ線です。正中を基準として、テンプレートで偏位を観察し写真撮影を行います。

患者さんも保護者も、関心があるのは顔貌だと思います。

顔貌は骨格と歯列、筋肉から成り立っています。特に片咬みなど咀嚼筋の習癖のある患者さんは、その兆候が必ず顔貌に現れます。初診時に問題ないと判断されたケースでも、成長とともに予測もつかない問題が起こることもあります。顔貌の変化を常に慎重に観察し記録を残します。

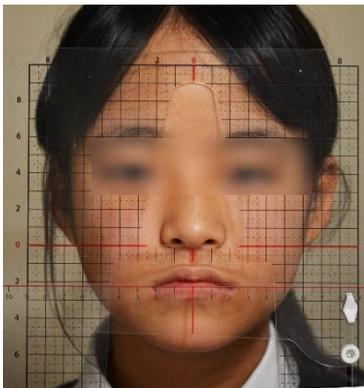
使用方法

図1



1. 図1を参考に患者さんの顔にあて、赤いラインを正中に合わせ左右の顔貌の偏位を比べます。
2. 眉間、人中、オトガイ中央に合わせ正面より撮影します。このとき、長髪の場合は髪をまとめて、前髪をピンでとめることで左右のズレが比較しやすくなります。左右のバランス及び、目・口・鼻の位置、大きさを比較します。
3. 測定バーを用いて、赤いラインを正中に合わせ顔面下方の偏位と大きさ、長さを比較します。

図2



チェック項目

- 顔がまがっている、左右の顔の形がちがう
- 目の位置が左右均等か、大きさ及び下垂
- 口唇が左右均等か、大きさ及び下垂
- オトガイの位置のズレを確認
- 下顎骨のズレを確認

参考メモ

- ▶ 偏位の原因は歯列、姿勢、骨格などによるものと、頬杖、睡眠時姿勢などの習癖によるものなど、単純に原因を特定することは困難です。顔貌の偏位を見つけたときは、歯列の確認、姿勢の確認と写真撮影を行い、習癖の問診を行います。
- ▶ 歯並びの問題は、顔の問題に関係しています。成長期に偏位した骨の形は一生変わりません。トレーニングをすることで筋肉のバランスを良くすることが大切です。

テンプレートに関する記載はないですが、詳しくは「口腔機能をはぐむバイオセラピープロモーション」42～48ページをご覧ください。